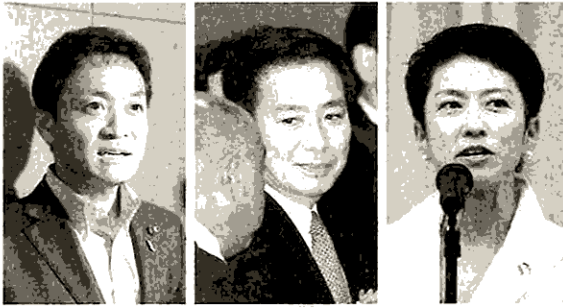


# 民進はや人事に関心

## 枝野氏留任望む声

### 代表選

15日に党代表選が行われる民進党で、新代表による執行部人事に早くも関心が集まっている。現岡田執行部が敷いた共産党との共闘路線の継承か、刷新かの試金石になるため、新代表がどこまで挙党態勢を演出するのかが焦点だ。〈本文記事2面〉



①支援者の会合であいさつする蓮舫代表代行の石井一・元参院議員のパーティーに出席した前原誠司・元外相の報道陣の質問に答える玉木雄一郎衆院議員(いずれも14日、東京都千代田区)

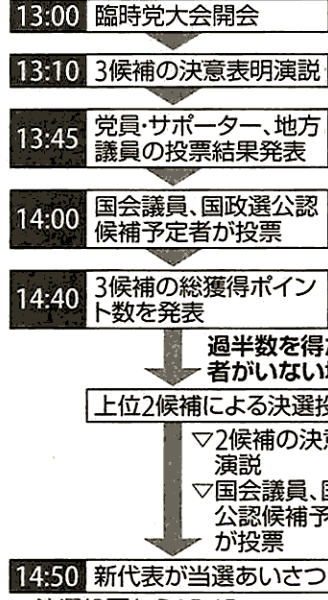
蓮舫代表代行は14日、国会内で自身が所属するグループのリーダーである野田前首相と会談した。代表選で行う演説内容や人事構想について意見交換したとみられる。蓮舫氏周辺は「代表選翌日の16日には代表代行、幹事長、国会対策委員長など重要ポストを決めた」と解説する。26日開会の臨時国会まで間がなく直ちに体制を整える必要があるとの判断からだ。

岡田代表に近い重鎮はすでに、蓮舫氏に枝野幹事長の留任が望ましいとの考えを伝えた。野党共闘など岡田氏の党運営を支えてきた枝野氏なら、岡田路線が継

承できるとの計算がある。蓮舫氏を支持するリベラル系議員も、安倍首相による憲法改正に消極的な枝野氏の続投は歓迎だ。

細野豪志・元環境相を幹事長や国対委員長など重要ポストで起用する案も取り沙汰されている。蓮舫氏支持の流れを作った「論功行賞」だ。蓮舫氏側近は「何らかのポストで細野さんを

15日の民進党代表選の主な流れ  
※時間は想定時刻



起用するだろう」と述べた。過去の民主党代表選では、選挙後に相手候補を枢要ポストに起用し、挙党態勢を築いた。蓮舫氏や前原誠司・元外相、玉木雄一郎衆院議員もこうした例にならない、自らが勝利した場合

は、他の2人を幹部として処遇する見通しだ。ただ、蓮舫氏については、台湾籍を巡る問題が人事に影響する可能性もある。細野氏周辺は「誰が幹事長になっても、いきなり弁明を強いられる。火中の栗を拾

①位が過半数を得れば

う必要はない」と話す。台湾籍を巡る問題ではこの日、長島昭久・元防衛副大臣、篠原孝・元農水副大臣らが緊急の常任幹事会を開き、蓮舫氏の説明を求める要請書を岡田氏あてに提出した。要請書は20人の連名で、前原、玉木両氏の推薦人が多くを占める一方、蓮舫氏の推薦人はいなかった。篠原氏は記者団に、「首相になるかもしれない人が二重国籍を放置している。党としての問題だ」と語った。

もっとも、蓮舫氏陣営に表立った離反の動きはなく、同氏は優位を保っている。長島氏らの要請書についても、執行部は取り合わない方針だ。党幹部は14日、蓮舫氏の問題について、「国会議員は二重国籍が禁じられているわけではない。今後説明して乗り越えていけばいい」と語った。